

# 的確な穂肥診断で、もみ数を制御して高品質米を作ろ

## 1 6月20日現在の稲姿

- 草丈は並ですが茎数は多く葉色も濃くなっています。
- 出穂期は、平年並（前年並）になる見込みです。

【6月20日現在の生育概況：平坦地管内平均】

※( )内は、測定値：指標値との比較

品種	草丈	茎数	葉数	葉色(SPAD値)
こしいぶき	並 (35cm:98%)	竹多(434本/m <sup>2</sup> :121%)	竹少 (8.4葉:-0.6葉)	竹濃 (42.0:+1.0)
コシヒカリ	並 (38cm:100%)	竹多(458本/m <sup>2</sup> :106%)	並 (8.6葉:-0.2葉)	竹濃 (40.2:+1.2)

## 2 品種別出穂予想と穂肥時期のめやす(6月20日現在の予想日)

品種	出穂予想日	1回目穂肥		2回目穂肥		2回合計窒素量(kg/10a)
		時期	出穂前日数	時期	出穂前日数	
新潟次郎	7月20日頃	6/20~6/25日頃	30~25	7/6日頃	14	6
五百万石	7月23日頃	7/3頃	20	7/11頃	12	1~2
つきあかり	7月23日頃	6/23~6/28頃	30~25	7/9頃	14	3~3.5
わたぼうし	7月26日頃	7/4~7/6	22~20	7/14~7/16頃	12~10	2~3
こしいぶき	7月30日頃	7/7頃	23	7/16頃	14	2
こがねもち	8月3日頃	7/16~7/19頃	18~15	7/24頃	10	1~3
コシヒカリ	8月5日頃	7/18~7/21頃	18~15	7/26頃	10	1~2.5
新之助	8月9日頃	7/20~7/23頃	21~18	7/31頃	10	2
いただき	8月10日頃	7/16頃	25	7/27頃	14	6
越淡麗	8月11日頃	7/24頃	18	8/1頃	10	2
みずほの輝き	8月13日頃	7/19頃	25	7/30頃	14	3

◎ 稚苗5月10~15日頃、中苗5月15~20日頃に移植した場合を想定。  
◎ 今後の天候で前後する可能性がある。

## 3 穂肥診断のポイント ~ほ場ごとに自己診断しよう!~

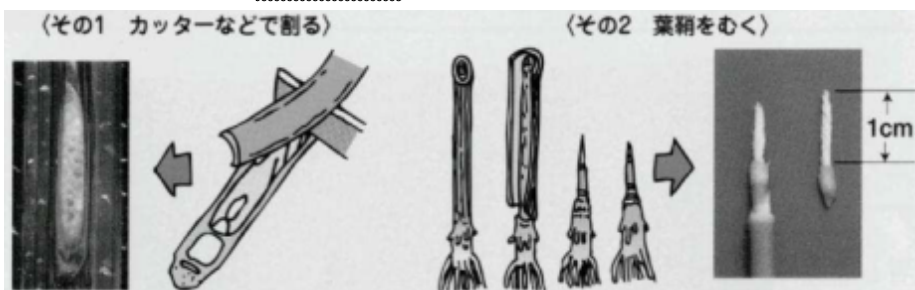
- 穂肥は、下記の手法で必ず稲の生育診断を行うとともに、天候や病害虫の発生状況及び地力等を総合的に判断して決める。
- 穂肥施用時は浅めに湛水し、その後は飽水管理を継続しましょう。

(1) 穂肥診断の手順 (幼穂長で施用日を決め、草丈と葉色で施肥量を判断する。)

① 幼穂長を測り出穂前日数を判断する。

【幼穂長と出穂前日数のめやす】

【葉緑素計と葉色板の読替表(コシヒカリ)】

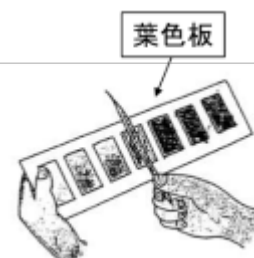
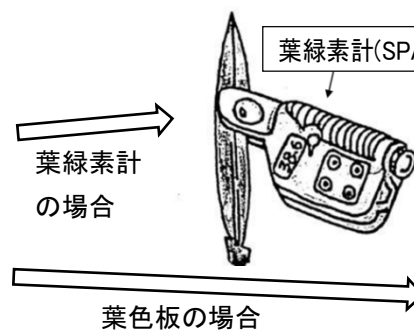


幼穂長(cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2	20日
0.5~1.0	18日
4.0~6.0	12日
10.0~12.0	10日

葉緑素計(SPAD502)の数値	葉色板(単葉)の数値	
	出穂24~21日前頃	出穂14~12日前頃
28	3.2	3.6
30	3.6	3.9
32	3.9	4.2
34	4.2	4.5
36	4.6	4.8
38	4.9	5.1

② 草丈を測る。

③ 葉色(単葉)を測る。



◎ 草丈・葉色調査は、水口や畦畔際を除き、ほ場内の生育中庸株5株程度の平均とする。

(2) コシヒカリの穂肥診断 ~上記の調査結果を基に、穂肥時期及び量を判断する~

【1回目の穂肥: 幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による診断】

【2回目の穂肥: 出穂12日前頃の葉色による診断】

草丈	葉色(単葉)	SPAD値 34~32 葉色板 4.2~3.9	SPAD値 35以上 葉色板 4.4以上
	70~75cm 以内	時期・量とも基準どおり施用 ■ 出穂18日前: 1.0kg/10a	時期を遅らせて施用 ■ 出穂15日前: 1.0kg/10a
75~80cm 以内	施肥量を減らす ■ 出穂18日前: 0.5~0.8kg/10a	時期を遅らせ、施肥量を減らす ■ 出穂15日前: 0.5~0.8kg/10a	
80cm 以上	施用できない	施用できない	

出穂14~12日前の葉色(単葉) ↓	出穂10日前の穂肥量(10a当たり)
SPAD値 34~32 葉色板 4.5~4.2	基準量どおり施用 1.0~1.5kg
SPAD値 35以上 葉色板 4.6以上	施肥量を減らす 0.7~1.0kg 未満

※2回目穂肥は、後期栄養維持のため確実に施用する。

(3) こしいぶきの穂肥診断 ~1回目の穂肥は、草丈・葉色から判断し、2回目の穂肥は確実に施用~

【1回目の穂肥: 幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による診断】 ※葉色の数値は参考値

【2回目の穂肥】

草丈	葉色	SPAD値 36以下、葉色板 4.6以下	SPAD値 37以上、葉色板 4.7以上
	60cm 未満	時期・量とも基準量どおり施用 ■ 出穂23日前: 1.0kg/10a	時期を遅らせて施用する ■ 出穂20~18日前: 1.0kg/10a
60cm 以上	施肥量を減らす ■ 出穂23日前: 0.8kg/10a 程度	時期を遅らせ、施肥量を減らす ■ 出穂20~18日前: 0.8~1.0kg/10a	

- 時期 : 出穂14日前
- 施肥量 : 1.0kg/10a
- ※ 低地力地域や後期栄養の不足が懸念される場合は、1.5kg/10a

次回7月6日発行予定